

2024年度 文学部聴講生

講義要項

(国文学専攻抜粋)

中央大学 文学部

2024.4 - 2025.3

科目名： 国語学概論A

担当教員： 田和 真紀子

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 水4

配当年次： 1・2年次配当

科目ナンバー： LE-JA1-A101

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:56:35 更新者： XEC415

更新日時： 2023-12-27 16:23:25

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

1. 導入として、「言語」について論ずる。言語が「意味」と「形式」の対応をもち、「体系」を有することによって成り立つということを解説する。
2. 言語の「形式」である「音韻」の体系を講ずる。現実の「音」と言語形式としての「音」の差違、日本語の音韻の特徴を説明する。また、これによって生ずる語彙的性質にも言及する。
3. 言語形式をうつす「文字」について解説する。
4. 基本的に、現代日本語（標準語・共通語）を対象とする。
5. 授業は講義形式で行うが、質疑応答を取り入れる。

科目目的

日本語の言語学的な基礎を学ぶ。国語学概論Aでは、主として、日本語の音韻構造と音声、そして、文字のしくみを学習する。

到達目標

日本語の音韻構造の特徴を学び、言語の心理的な形式と物理的な形式の二重性を理解する。また、言語と文字の関係性を理解する。

授業計画と内容

1. 言語とは？－現象－
2. 言語とは？－言語記号、体系－
3. 言語学とは？－分野、言語の種類、言語の系統－
4. 音声・音韻とは？－音声学と音韻論－
5. 日本語の音声・音韻－母音－
6. 日本語の音声・音韻－子音－
7. 日本語の音声・音韻－音韻現象、特殊拍、拍・音節－
8. 日本語の音韻－アクセント－
9. 日本語の音韻－イントネーション、プロミネンス、ポーズ－
10. 日本語の音韻－方言的変異－
11. 日本語の文字－文字とは？－
12. 日本語の文字－漢字－
13. 日本語の文字－仮名、ローマ字－
14. 日本語の文字－表記法－

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 70% 客観式試験

レポート	0%
平常点	30% 小レポート
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- ✓ タブレット端末
- その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【使用テキスト】
佐藤武義 (編著) 『展望 現代の日本語』 白帝社

オフィスアワー

その他特記事項

本授業は教職科目 (国語) である。
国語科における音声教育・文字教育の基礎を教授する。
また、日本語の記述方法 (説明方式) について、科学的な方法論を教授する。

参考URL

備考

この科目はオンライン形式です。 この科目は教職 (国語) の必修科目です。

科目名: 国語学概論B

担当教員: 田和 真紀子

履修年度: 2024 学期: 後期

開講曜日時限: 水4

配当年次: 1・2年次配当

科目ナンバー: LE-JA1-A102

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 06:56:35 更新者: XEC415

更新日時: 2023-12-27 16:26:05

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

1. 言語の「意味」を担う、「文法」・「語彙」の分野の基本構造を説明する。
2. 「文法」は、文法カテゴリーから出発し、日本語の文法的特徴に及ぶ。「語彙」は、単語の意味の仕組みから出発し、語彙の体系性と量的構造に及ぶ。
3. 基本的に、現代日本語(標準語・共通語)を対象とする。
4. 授業は講義形式で行うが、質疑応答を取り入れる。

科目目的

日本語の言語学的な基礎を学ぶ。国語学概論Bでは、主として、日本語の文法構造と意味論について学習する。

到達目標

日本語の音文法構造の特徴を学び、日本語の形態論の特徴と、構文論的な特徴について、基礎的な見識を形成する。

授業計画と内容

1. 日本語の語彙－語彙とは？－
2. 日本語の語彙－意味と形式－
3. 日本語の語彙－和語・漢語・外来語－
4. 日本語の語彙－語彙の体系－
5. 日本語の文法－文法とは？－
6. 日本語の文法－構文論と形態論－
7. 日本語の文法－学校文法と日本語教育における文法－
8. 日本語の文法－活用－
9. 日本語の文法－副詞・接続詞－
10. 日本語の文法－ヴォイス－
11. 日本語の文法－アスペクト－
12. 日本語の文法－テンス－
13. 日本語の文法－ムード－
14. 日本語の文法－待遇表現－

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	70% 客観式試験
レポート	0%
平常点	30% 小レポートと質問票
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- ✓ タブレット端末
- その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】
佐藤武義 (編著) 『展望現代の日本語』 白帝社

オフィスアワー

その他特記事項

本授業は教職科目 (国語) である。
国語科における文法教育・語彙教育の基礎を教授する。
また、日本語の記述方法 (説明方式) について、科学的な方法論を教授する。

参考URL

備考

この科目はオンライン形式です。 この科目は教職 (国語) の必修科目です。

科目名：日本文学史A

担当教員：吉野 瑞恵

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：月3

配当年次：1・2年次配当

科目ナンバー：LE-JL1-A201

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:56:41 更新者：AD0054

更新日時：2024-01-06 20:48:08

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

文学史は、個々の文学作品の評価を行った上で、より大きな視点から、それぞれのジャンルが時代の影響を受けながらどのように展開していったのか考察することによって成り立っている。
この授業では、文学作品が生み出された時代における評価と現代における評価の両方に目配りをしつつ、各時代の代表的な文学作品を取り上げて読解していく。対象とするのは、上代・中古・中世・近世、歴史学の時代区分でいうと古代・中世・近世の文学作品である。

科目目的

この科目は、学位授与の方針である国文学専攻の学問分野において求められる専門的な知識を身につけることを目的とする。

到達目標

- ・古典文学それぞれについての内容を理解し、自分の言葉で説明することができる。
- ・各文学作品の時代背景を理解し、作品への理解を深めることができる。
- ・古典文学に関する基礎的な知識を身につけ、今後の作品読解に活かすことができる。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス (授業の進め方、時代区分、文学史とは何か)
- 第2回 上代文学①：『古事記』『日本書紀』—神代から人の世へ—
- 第3回 上代文学②：『万葉集』—仮名誕生以前の歌集—
- 第4回 中古文学①：『古今和歌集』—規範となった和歌集—
- 第5回 中古文学②：『伊勢物語』『大和物語』—歌語りから歌物語へ—
- 第6回 中古文学③：『蜻蛉日記』『更級日記』『讃岐典侍日記』—体験を語る—
- 第7回 中古文学④：『源氏物語』—新しい物語の出現—
- 第8回 中世文学①：『宇治拾遺物語』『閑居友』—説話集の隆盛—
- 第9回 中世文学②：『新古今和歌集』—和歌の新風—
- 第10回 中世文学③：『とはずがたり』—物語を生きる—
- 第11回 近世文学①：『好色一代男』—古典のパロディー—
- 第12回 近世文学②：『雨月物語』—和文による怪異談—
- 第13回 近世文学③：『源氏物語玉の小櫛』—国学の思想と古典研究—
- 第14回 総括・まとめ

*取り上げる作品は、シラバスとは異なる場合もあります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業で扱う作品については、あらかじめテキストを読んで、概要を頭に入れておくこと。授業で取り上げた作品だけではなく、同時代の他の作品についても目を通しておくこと。
興味を持った作品があれば、新編日本古典文学全集(小学館)、新日本古典文学大系(岩波書店)などを参照して実際に読んでほしい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	60% 期末試験で、基礎的な知識が身に付いているか確認する。
レポート	0%
平常点	40% 毎回提出してもらう予定のリアクションペーパーの内容によって、授業が理解できているか判断する。場合によっては小課題を課すこともある。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

期末試験は、コロナの感染状況などによっては期末レポートにする可能性もある。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト：秋山虔・三好行雄『原色シグマ 新日本文学史〔増補版〕』文英堂・2017年 ISBN:9784578271925

授業で扱う作品については、原文をコピーしたものを授業中に配布する。

オフィスアワー

その他特記事項

受講に関わる要望・注意事項、および連絡先については、初回授業にて説明する。

参考URL

備考

この科目は教職(国語)の必修科目です。

科目名：日本文学史B

担当教員：竹田 志保

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：火5

配当年次：1・2年次担当

科目ナンバー：LE-JL1-A202

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:56:41

更新者：AA2346

更新日時：2024-01-08 22:11:32

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

この講義では、近世末期から戦後にかけての文学作品と作者、および文芸思潮などに関する歴史を学びます。個別の文学作品の読解だけでなく、それらを歴史的背景のなかで捉えることで理解を深めます。

科目目的

近世から近現代にいたる日本文学史に関する知識を獲得し、文学作品を歴史的に把握する能力を身につけることを目的とします。

到達目標

近世から近現代にいたる文学史の主要作品やジャンルに関する基礎知識を習得し、その流れを歴史的に説明できる。

授業計画と内容

- 1 ガイダンス、授業の概要の説明
- 2 近世から近代へ
- 3 明治文学① 開化期の文学
- 4 明治文学② 言文一致
- 5 明治文学③ 自然主義
- 6 明治文学④ 夏目漱石と森鷗外
- 7 大正文学① 青鞥、白樺派
- 8 大正文学② 新思潮、心境小説
- 9 昭和文学① モダニズム文学
- 10 昭和文学② プロレタリア文学文学
- 11 昭和文学③ 戦時下の文学
- 12 戦後の文学① 戦後派
- 13 戦後の文学② ポストモダン
- 14 授業のまとめと総括：文学を歴史的に捉えることの意義

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)

- | | |
|------|----------------------------|
| 中間試験 | 0% |
| 期末試験 | 60% 文学史に関する基本知識を問う試験を課します。 |
| レポート | 0% |

平常点	40%	授業時に小テスト・コメントなどの提出を求めます。平常点とは、これらの授業内課題の内容による評価のことを言います。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

毎回、授業に出席することが基本ですから、欠席が半期に3回を超える場合は原則として成績評価の対象から除外します。

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】秋山虔・三好行雄編著『原色シグマ 新日本文学史〔増補版〕』（文英堂・2017年・ISBN:978-4-578-27192-5）
必要に応じて、作品等のプリントを配布する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

この科目は教職（国語）の必修科目です。

科目名： 上代文学A

担当教員： 小野 泰央

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 木1

配当年次： 1・2年次配当

科目ナンバー： LE-JL1-A203

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:56:42 更新者： AA1728

更新日時： 2023-11-24 18:16:13

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

この講義では、万葉歌から浮かび上がる型を分析していきます。さらにその型がそれ以後の日本文学にどのように継承されていくかをも探っていきます。義体的には、以下の3点を中心にして論じていきます。

- ①構造 ソシュールからヤコブソンへといった構造言語学とレヴィ＝ストロースなどの構造主義を理解した上で、万葉歌の構造を考える。
- ②後代への影響 万葉歌が後代の歌にどのように景況を及ぼしたかを考える。
- ③現代との関係 現代の歌詞や詩歌とどのように重なるか。

科目目的

この科目は、学位授与の方針である国文学専攻の学問分野において求められる専門的な知識を身につけることを目的とする。

到達目標

- ・『古事記』に記載された神話を読み、語られることの意義が説明できる。
- ・神話に対する理解を深めることで、古代文学の特色を理解することができる。
- ・テキストを読むことを通じて、古典作品の読解方法を身に付けることができる。

授業計画と内容

- 第1回 批評理論を考えるーソシュールとヤコブソンとレヴィ＝ストロースー
- 第2回 万葉集の概略
- 第3回 詩型①ー初期の宮廷歌
- 第4回 詩型②ー相聞
- 第5回 詩型③ー口承と記載
- 第6回 詩型④ー挽歌
- 第7回 詩型⑤ー譬喩歌
- 第8回 詩型⑥ー漢文学の影響
- 第9回 詩型⑦ー大宰府の宴
- 第10回 詩型⑧ー七夕歌の物語性
- 第11回 詩型⑨ー東歌・防人歌
- 第12回 詩型⑩ー大伴家持の歌と六歌仙・古今集
- 第13回 詩型⑪ー正岡子規と万葉集
- 第14回 まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	90%	基礎知識を理解した上で、古典文学を社会的背景から説明できるかどうかを評価する。
レポート	0%	
平常点	10%	授業動画の視聴状況で判断する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト：『訳文 万葉集』（森 淳司 編・笠間書院）

オフィスアワー

その他特記事項

受講に関わる要望・注意事項、および連絡先については、初回授業にて説明する。

参考URL

備考

科目名： 上代文学B**担当教員： 小野 泰央**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：木1

配当年次：1・2年次配当

科目ナンバー：LE-JL1-A204

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:56:43 更新者：AA1728

更新日時：2023-11-24 18:16:23

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この講義では、『古事記』上巻に記された神々の物語を取り上げ、そこに浮かび上がる話型を分析していきます。さらにその話型がそれ以後の日本文学にどのように継承されていくかをも探っていきます。義体的には、以下の3点を中心にして論じていきます。

- ①話型 ソシュールからヤコブソンへといった構造言語学とレヴィ＝ストロースなどの構造主義を理解した上で、『古事記』の神話の話型を考える。
- ②後代への影響 『古事記』の神話がその後の古典に及ぼした影響を考える。
- ③現代との関係 小説・ドラマ・マンガなどの現代作品とどのように話型が重なるか。

科目目的

この科目は、カリキュラム上の専攻科目群として位置づけられていることから、専攻における知識の一つとして、古典におけるその背景を理解した作品研究を目的とする。

到達目標

- ・『古事記』に記載された神話を読み、語られることの意義が説明できる。
- ・神話に対する理解を深めることで、古代文学の特色を理解することができる。
- ・テキストを読むことを通じて、古典作品の読解方法を身に付けることができる。

授業計画と内容

- | | |
|------|---------------------------------|
| 第1回 | 批評理論を考えるーソシュール・ヤコブソン・レヴィ＝ストロースー |
| 第2回 | 話型①ー『古事記』の成立とその時代 |
| 第3回 | 話型②ー天地の始まりと国土の創生 |
| 第4回 | 話型③ーイザナキの黄泉国訪問 |
| 第5回 | 話型④ーアマテラスとスサノヲ |
| 第6回 | 話型⑤ースサノヲの大蛇退治 |
| 第7回 | 話型⑥ー因幡(いなば)のしろ兎 |
| 第8回 | 話型⑦ーオホナムチの異界訪問 |
| 第9回 | 話型⑧ーオホナムチから大国主(オホクニヌシ)へ |
| 第10回 | 話型⑨ー大国主の国作り |
| 第11回 | 話型⑩ー大国主の国譲り |
| 第12回 | 話型⑪ー天孫ホノニギの地上への降臨 |
| 第13回 | 話型⑫ーヤマサチビコの海宮訪問 |
| 第14回 | 講義全体のふりかえり |

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	90%	基礎知識を理解した上で、古典文学を社会的背景から説明できるかどうかを評価する。
レポート	0%	
平常点	10%	授業動画の視聴状況で判断する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

新版 古事記 現代語訳付き (角川ソフィア文庫)

オフィスアワー

その他特記事項

受講に関わる要望・注意事項、および連絡先については、初回授業にて説明する。

参考URL

備考

科目名： 中古文学A**担当教員： 中川 照将**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限： 火1

配当年次：1・2年次配当

科目ナンバー： LE-JL1-A205

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:56:44 更新者： AA2031

更新日時： 2024-01-18 22:17:25

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

文学研究の中では「基礎研究」に分類される「本文研究」について考察します。古典文学作品は、作者自筆本がほとんど残っていません。本文研究とは、その残っていない作者自筆本がどんなものであったのか。そして、現在、わたしたちが何気なく手にしている古典文学作品が、どういう経緯を経て今に至っているのかということを探るものです。「原本」とは何か。「作者」とは何かなど、一見簡単そうに思われながらも、よくよく考えてみるとよくわからない概念について、『源氏物語』を中心に考えます。

科目目的

日本文学史の知識と古文の基本的な読解力を活用しながら、古典文学作品の享受の実態と、それぞれの歴史的意義について考えます。『源氏物語』などの古典文学作品の成り立ちに関する学びを通して「伝本」「本文異同」等の術語や校本の扱い方などの基本的な知識と方法を身につけるとともに、異本を含めた古典文学研究への応用力を身につけることが、この科目の目的です。

到達目標

- (1) 『源氏物語』本文研究史の概要を理解できるようになること。
- (2) 文学作品における「作者」の概念を理解できるようになること。
- (3) 文学作品における「原本」の概念を理解できるようになること。
- (4) (1)～(3)の理解を踏まえ、自らの考えをレポートとして文章化できるようになること。

授業計画と内容

- 1 ガイダンスー 授業の目的・内容・評価に関する説明、大学入試の問題を解いてみよう！
- 2 “正解は作者のみが知っている”は本当か？
- 3 “現実”の作者と“機能”としての作者ーわたしたちは作者の真実を理解できるのか？
- 4 “ブンケンガク”というお仕事ー原本とはなにか？
- 5 本文系統図を作成しようーミスをした犯人はだれか？
- 6 原本と近代文学と古典文学ーそれは遠き日のおとぎ話ではない
- 7 写本のイメージをつかもうー『更級日記』の場合
- 8 本文を「改める／改めない」の境目ー正しい本文とはなにか
- 9 『源氏物語』の本文研究史①ー『源氏物語』に関する「わかること／わからないこと」
- 10 『源氏物語』の本文研究史②ー青表紙本・河内本・別本とはなにか
- 11 『源氏物語』の本文研究史③ー“青表紙本は読みにくい”という事実はなにを意味しているか
- 12 『源氏物語』の本文研究史④ー源氏物語はいつ『源氏物語』になったのか
- 13 さまざまな『源氏物語』のかたち
- 14 まとめと講評

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数／週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	90%	作品内容の理解度・講義内容の理解度・課題内容の理解度・課題に対する独自の解釈の4点に着目して評価します。
平常点	10%	授業後の感想・質問の提出 小レポート
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

出席率が70%に満たない者、課題を提出しない者についてはE判定とします。提出期限に遅れたものについては受け付けません。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
タブレット端末
その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- 【教科書】
講義資料に関しては、manabaにアップします。各自でダウンロードしてください。
- 【参考文献】
高等学校で使用した「国語便覧」は非常に便利なものなので、毎時持参してください。

オフィスアワー

その他特記事項

授業で使用する資料は、前日までにmanabaにアップします。各自で印刷するか、端末で見られるようにダウンロードしておいてください。
毎回、講義内容の感想や質問をレスポンドで回収し、それをもって出席とします。授業当日の19時までに提出してください。

参考URL

備考

科目名: 中古文学B

担当教員: 中川 照将

履修年度: 2024 学期: 後期

開講曜日時限: 火1

配当年次: 1・2年次配当

科目ナンバー: LE-JL1-A206

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 06:56:44 更新者: AA2031

更新日時: 2024-01-18 22:18:27

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

平安時代の作り物語である『夜の寝覚』を取り上げます。本作品は、中間部分と末尾部分が物理的に失われた作品として知られていますが、その“失われた部分”というのは、どういった内容だったのでしょうか。本講義では、最初に作品全体の概要を解説した後、みなさんに『寝覚』の“失われた部分”の復元を体験してもらいます。そうした活動を通して、物語文学研究のテーマの1つである「物語の復元」の基本的な方法を学ぶとともに、平安時代における物語作品の実態について考えていきます。

科目目的

日本文学史の知識と古文の基本的な読解力を活用しながら、平安時代に書かれた『夜の寝覚』の成り立ちと歴史的位置づけについて考えます。『夜の寝覚』は、『源氏物語』から大きな影響を受けた作品として知られています。『夜の寝覚』の読解を通して、本作品の概要を理解するのはもちろんのこと、それで得られた知識と方法を、他作品の読解に役立てていける応用力を身につけることが、この科目の目的です。

到達目標

- (1) 平安～室町時代に書かれた文章を正確に読解できるようになること。
- (2) あらゆるジャンルの作品研究に汎用できる、文学史に関する知識を身につけること。
- (3) 文学作品に関する諸問題について、その解決の糸口を自らの力で見つけられるようになること。
- (4) (1)～(3)を踏まえ、自らの考えをレポートとして文章化できるようになること。

授業計画と内容

- 1 ガイダンスー 授業の目的・内容・評価に関する説明、『夜の寝覚』の概要
- 2 『夜の寝覚』の概要について①一天人降下と二つの予言
- 3 『夜の寝覚』の概要について②一登場人物を整理しよう
- 4 『夜の寝覚』の概要について③一九条殿の“人違へ”の逢瀬
- 5 失われた物語を復元しようー巻二末尾と巻三冒頭
- 6 中村本『夜の寝覚』の問題点
- 7 原作本『夜の寝覚』と『無名草子』
- 8 原作本『夜の寝覚』と『物語二百番歌合』
- 9 原作本『夜の寝覚』と『風葉和歌集』
- 10 原作本『夜の寝覚』巻三・四・五と中間欠巻部分
- 11 課題の講評
- 12 『夜の寝覚』と『源氏物語』
- 13 散逸物語の復元に際しての注意点
- 14 『夜の寝覚』の文学史的位置づけ、まとめと講評

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	0%	
レポート	90%	作品内容の理解度・講義内容の理解度・課題内容の理解度の3点に着目して評価します。 中間レポートと最終レポート
平常点	10%	授業後の感想・質問の提出 小レポート
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

出席率が70%に満たない者、課題を提出しない者についてはE判定とします。提出期限に遅れたものについては受け付けません。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- ✓ 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
タブレット端末
その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

講義資料に関しては、manabaにアップします。各自でダウンロードしてください。
【参考文献】
高等学校で使用した「国語便覧」は非常に便利なものなので、毎時持参してください。

オフィスアワー

その他特記事項

授業で使用する資料は、前日までにmanabaにアップします。各自で印刷するか、端末で見られるようにダウンロードしておいてください。
毎回、講義内容の感想や質問をレスポンドで回収し、それをもって出席とします。授業当日の19時までに提出してください。

参考URL

備考

科目名： 中世文学A**担当教員： 吉野 朋美**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限： 月3

配当年次：1・2年次担当

科目ナンバー： LE-JL1-A207

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:56:45 更新者： AA0722

更新日時： 2024-01-08 16:25:17

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

院政期から安土桃山時代まで(おおよそ12世紀後半から16世紀)の文学について取り扱います。今期は、主に時代状況や社会的様相とかかわって展開していった文学の流れを確認しながら、度重なる戦乱や災禍に見舞われ価値観が大きく揺らいだ激動の時代に展開した中世文学の豊かな世界を、人間の営みにかかわるいくつかのテーマから分析・読解していきたいと思えます。関連する具体的な作品を取り上げ、絵や写真等も見ながら、多角的に掘り下げたいと考えています。基本的には講義形式ですが、スマホを生かした授業中のクイズ形式のやりとりや授業後に提出されるコメントなどを通して、できる限り受講生の声を拾いあげ、それを取り込む形で進める予定です。

科目目的

中世は一般的には武士の時代とされていますが、一方で特に文化面では、朝廷や貴族、寺社といった既存の権力も強い力を持ちます。そうした多様な価値観がせめぎ合う中で多様な、そして活発な文学活動が行われ、多くの文学作品が残されました。いくつかのテーマから多角的に見ていくことで、深く広く中世文学についての知識を得ることを目的とします。また、各自の研究テーマの発見につながることもめざしたいと思います。

到達目標

- ・中世文学を知り、読むことの面白さを感じる。
 - ・様々な考察を通して、現代に生きる我々が古典文学を学び、味わうことの意義を見つける。
- 中世は多くの災害や戦乱に見舞われた激動の時代でしたが、その中でも人々はさまざまなかたちで語ることを手放しませんでした。中世文学を学ぶことで、混沌とした現代でわたしたちがどう生きていくのかというヒントが得られれば何よりです。

授業計画と内容

- 1、ガイダンス——〈中世〉という時代区分／中世文学概観——背景としての時代・社会状況
 - 2、たたかう①——異類・異界・自然との闘い
 - 3、たたかう②——戦乱の描写
 - 4、たたかう③——ライバルとの闘い
 - 5、たたかう④——おのれとの闘い
 - 6、たたかう⑤——雅びな闘い
 - 7、つながる・つなげる①——地方と都・旅
 - 8、つながる・つなげる②——家族の絆・男女の絆
 - 9、つながる・つなげる③——過去に連なる1
 - 10、つながる・つなげる④——過去に連なる2
 - 11、つながる・つなげる⑤——座の文芸1
 - 12、つながる・つなげる⑥——座の文芸2
 - 13、習熟度確認
 - 14、補足・総括
- ただし、授業の進度や受講生とのやりとり等によって変更することもあります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数／週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	60%	授業で扱ったことを理解しているかを確認します。ただし、出席が7割に満たない場合、試験の受験資格はありません。
レポート	0%	
平常点	40%	毎授業時に書き終了後にmanabaに提出してもらったコメントの内容を評価します。各回の講義内容の理解度、それに対する自分なりの考察や、感想、または疑問点の提示などをポイントとして判断します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

Slidoを利用して受講生参加型の講義内容に関するQ&Aを授業内に実施し、授業内ですぐに結果を提示することで、学習内容の定着や授業への興味を高めるようにします。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、レジュメを配布します。参考文献については授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

配布されるプリントをよく読み、自分なりに疑問点を明確にしながら授業に臨んでください。また授業では、作品のごく一部しかふれることができません。授業後は、作品とその背景への理解をより深めるために、自身でほかの部分を読んだり、関連作品や参考文献を読んだりするようにしてください。

なお、中世文学Bとあわせて受講することが望ましいです。また、時代を接する中古文学・近世文学や日本文学史の講義を受講すると、より理解が深まるでしょう。

参考URL

科目名： 中世文学B

担当教員： 吉野 朋美

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 月3

配当年次： 1・2年次配当

科目ナンバー： LE-JL1-A208

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:56:45 更新者： AA0722

更新日時： 2024-01-08 16:26:24

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

院政期から安土桃山時代まで(おおよそ12世紀後半から16世紀)の文学について取り扱います。中世は日本史上でも類のない、戦乱と災害に見舞われた時代でした。人々は常に死への自覚と恐れを意識しつつ生きていましたが、いっぽうで、今の私たちと変わらない、日常を生き、世を見つめる目も持っていました。

今期は、時代状況や社会的様相とかかわって展開していった文学の流れを確認しつつ、人間の営みにかかわるいくつかのテーマを通じて、中世の人々の考え方や信仰・心情をすくい取っていききたいと思います。関連する具体的な作品を取り上げ、絵や写真等も見ながら、多角的に掘り下げたいと考えています。

基本的には講義形式ですが、スマホを生かした授業中のクイズ形式のやりとりや授業後に提出されるコメントなどを通して、できる限り受講生の声を拾いあげ、それを取り込む形で進める予定です。

科目目的

中世は一般的には武士の時代とされていますが、一方で特に文化面では、朝廷や貴族、寺社といった既存の権力も強い力を持ちます。そうした多様な価値観がせめぎ合う中で多様な、そして活発な文学活動が行われ、多くの文学作品が残されました。いくつかのテーマから多角的に見ていくことで、深く広く中世文学についての知識を得ることを目的とします。また、各自の研究テーマの発見につながることもめざしたいと思います。

到達目標

- ・中世文学を知り、読むことの面白さを感じる。
 - ・過去に生きた人々の思想や宗教観を学び、現在とのかかわりを考える目を養うこと。
 - ・様々な考察を通して、現代に生きる我々が古典文学を学び、味わうことの意義を見つかること。
- 中世は多くの災害や戦乱に見舞われた激動の時代でしたが、その中でも人々はさまざまなかたちで語ることを手放しませんでした。中世文学を学ぶことで、混沌とした現代でわたしたちがどう生きていくのかというヒントが得られれば何よりです。

授業計画と内容

- 1、ガイダンス——〈中世〉という時代区分／思う・信じる・祈る①——信心が呼ぶ奇蹟
 - 2、思う・信じる・祈る②——末法思想と信仰
 - 3、思う・信じる・祈る③——仏教思想の展開
 - 4、想像する・創造する①——死後の世界1
 - 5、想像する・創造する②——死後の世界2
 - 6、想像する・創造する③——跋扈する怨霊
 - 7、想像する・創造する④——怨霊と鎮魂
 - 8、想像する・創造する⑤——中世神話
 - 9、生きる①——さまざまな職業・職人歌合
 - 10、生きる②——プロの仕事
 - 11、楽しむ①——お伽草子の世界1
 - 12、楽しむ②——お伽草子の世界2
 - 13、習熟度確認
 - 14、補足・総括
- ただし、受講生とのやりとり等によって変更することもあります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	60%	授業で扱ったことを理解しているかを確認します。ただし、出席が7割に満たない場合、試験の受験資格はありません。
レポート	0%	
平常点	40%	毎授業時に書き終了後にmanabaに提出してもらったコメントの内容を評価します。各回の講義内容の理解度、それに対する自分なりの考察や、感想、または疑問点の提示などをポイントとして判断します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

Slidoを利用して受講生参加型の講義内容に関係するQ&Aを授業内に実施し、授業内ですぐに結果を提示することで、学習内容の定着や授業への興味を高めるようにします。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、レジュメを配布する。
参考文献は適宜、授業時に紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

配布されるプリントをよく読み、自分なりに疑問点を明確にして授業に臨んでください。また授業では、作品のごく一部しかふれることができません。授業後は、作品とその背景への理解をより深めるために、自身でほかの部分を読んだり、関連作

品や参考文献を読んだりするようにしてください。

なお、中世文学Aとあわせて受講することが望ましいです。また、時代を接する中古文学・近世文学や日本文学史の講義を受講すると、より理解が深まるでしょう。

参考URL

備考

科目名： 近現代文学(1)A**担当教員： 宇佐美 毅**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：水1

配当年次：1・2年次配当

科目ナンバー：LE-JL1-A211

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:56:46 更新者：AA9013

更新日時：2023-12-12 21:36:01

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

学部1、2年生を主な履修対象としているので、フィクション作品を研究するとはどのようなことなのかを基礎から学ぶことにします。ただし、講義内容が抽象的にならないように、具体的な作品を取り上げて講義します。テレビドラマは作り手の個性を反映したものであると同時に、社会との関係によってその内容を変化させてきました。今年度前期の講義では、日本の戦後史とテレビドラマの関係を重視し、テレビドラマ作品を時代順に追いながら、それぞれの作品の時代背景との関係を考察していきます。文学部国文学専攻以外の他学部・他専攻の学生の履修も歓迎します。

科目目的

日本のテレビドラマ作品を通して、フィクション作品を研究するのに必要な方法や考え方を学びます。

到達目標

フィクション作品を通して、文化的・社会的な課題を考察する姿勢を持てるようになること。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス・テレビドラマ研究の意義
- 第2回 1960年代のテレビドラマ・創成期
- 第3回 1970年代のテレビドラマ・学校ドラマ
- 第4回 1970年代のテレビドラマ・必殺シリーズ
- 第5回 1980年代のテレビドラマ・群像ドラマ
- 第6回 1980年代のテレビドラマ・トレンドドラマ
- 第7回 1990年代のテレビドラマ・バブル崩壊期のドラマ
- 第8回 1990年代のテレビドラマ・自分探しドラマ
- 第9回 2000年代のテレビドラマ・韓流ブームと純愛ブーム
- 第10回 2000年代のテレビドラマ・韓流ドラマとは何か
- 第11回 2010年代のテレビドラマ・東日本大震災とドラマ
- 第12回 近年の「朝ドラ」と「大河ドラマ」
- 第13回 日本のテレビドラマの現在と未来
- 第14回 授業のまとめ

授業形態は講義形式になります。ただし、授業が一方向的にならないよう、responによるアンケートなどによって、履修者からの意見の発信を毎回求めます。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回の講義内容に関して予習した上で講義に臨んでください。また、配布されたレジュメを講義後に十分理解するよう努めてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	50%	試験は、講義内容に基づいて学期末に一度おこなう予定です。
レポート	0%	
平常点	50%	平常点とは、授業への出席して講義を理解すること、その上でrespon等で自分の考えたことを提出することを指します。単純に出席・欠席で平常点がつくわけではありません。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

試験においても、通常のrespon等においても、「講義を理解していること」「自分の考えを明確に示していること」を重視します。つまり、知識量や単純な暗記を求めるのではなく、理解に基づいた自分なりの考察をすることを重視します。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

授業で得られた履修者からの発信内容（respon等）について、講義者が授業内でコメントを加えることがあります。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
- ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

講義内容に関するループワークや、履修者の意見の発信を求めることがあります。

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

授業内でアンケートをおこない、その場でスマホ等によるresponの回答を求めることがあります。また、その回答の集計を表示して、講義者がコメントをすることがあります。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

購入してもらうテキスト等はありません。取り上げるテレビドラマの一部を授業内に視聴し、他にパワーポイントによる資料を授業後に配付します。

オフィスアワー

その他特記事項

- ・テレビドラマを通してフィクション作品について考えてみたい、という姿勢があれば、普段からテレビドラマをよく見る必要はありません。
- ・授業には毎回出席することが基本ですから、欠席は多くても3回までとってください。内容は入門レベルの授業ですが、履修は100分間の授業に集中できる人に限ります。
- ・教室内では、responで回答するためにスマートフォンを使用できる時間を設けます。一方それ以外の時間は、PCやスマートフォンの使用を禁止します。講義を理解するのに集中する時間と、スマートフォンを用いて調べたり自分の意見を発信したりする時間とを、授業時間内で明確に区分するようにします。
- ・公欠等の理由のある欠席については、原則として学期末にまとめて所定の方法で届出をしてもらいます。緊急に対応が必要な場合を除き、個別指導欄などを使って毎回個別に連絡をすることはしないでください。届出方法は授業内で説明します。なお、公欠等の理由のある欠席について一定の配慮をしますが、配慮のためには、授業後にresponの回答をすることなどが必要

です。成績評価の欄にあるように、単純な「出席点」というものはこの授業にはありませんので、公欠届を出すことでそのまま平常点がつくわけではありません。

参考URL

備考

科目名： 近現代文学(1)B

担当教員： 宇佐美 毅

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 水1

配当年次： 1・2年次配当

科目ナンバー： LE-JL1-A212

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:56:46 更新者： AA9013

更新日時： 2023-12-14 20:35:25

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

学部1、2年生を主な履修対象としているので、日本の近現代文学を研究するとはどのようなことなのかを基礎から学ぶことにします。講義内容が抽象的にならないように、村上春樹の作品を具体的にとりあげながら講義します。村上春樹作品は個々に独立していても、相互に関連しあっています。そこで今年度は村上春樹作品を一作品ずつ分析していくのではなく、毎回異なる分析のテーマを設けて、村上春樹作品共通の特徴を考察していきます。多くの村上春樹作品を取り上げますが、特に『ノルウェイの森』に触れることが多いので、『ノルウェイの森』は講義の早い段階で読んでおいてください。

文学部国文学専攻以外の他学部・他専攻の学生の履修も歓迎します。

科目目的

村上春樹作品を通して、日本の近現代文学を研究するのに必要な方法や考え方を学びます。

到達目標

文学作品(小説その他)を研究するのに必要な、知識・姿勢・考え方を身につけることを目標とします。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス・村上春樹作品の軌跡
- 第2回 村上春樹初期作品と「読者の眩惑」
- 第3回 村上春樹作品と「人の死」
- 第4回 村上春樹作品と「恋愛像」
- 第5回 村上春樹作品と「男性性」「女性性」
- 第6回 村上春樹作品と「作中人物のことば」
- 第7回 村上春樹作品と「一般読者」
- 第8回 村上春樹作品と「嘘」
- 第9回 村上春樹作品と「阪神淡路大震災」
- 第10回 村上春樹作品と「地下鉄サリン事件」
- 第11回 村上春樹作品と「インターテクスチュアリティ」
- 第12回 村上春樹作品と「国語教科書」
- 第13回 村上春樹作品と「マスコミ報道」
- 第14回 授業のまとめ

授業形態は講義形式になりますが、毎回respon等を通じて、履修者の皆さんの意見を発信してもらうように心がけます。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

『ノルウェイの森』(講談社文庫など)を読んだ上で講義に臨んでください。また、配布されたレジュメを講義後に十分理解するよう努めてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 50% 試験は、講義内容に基づいて学期末に一度おこなう予定です。

レポート	0%	
平常点	50%	平常点は単なる出席点ではなく、毎回の授業内容を理解した上で、respon等を通じて各自の考えを発信するなど、授業への取り組み度を総合的に評価します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

試験においても、通常のrespon等においても、「講義を理解していること」「自分の考えを明確に示していること」を重視します。つまり、知識量や単純な暗記を求めるのではなく、理解に基づいた自分なりの考察をすることを重視します。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

授業で得られた履修者からの発信内容（respon等）について、講義者がコメントを加えることがあります。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
- ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

講義内容に関するループワークや、履修者の意見の発信を求めることがあります。

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

授業内でアンケートをおこない、その場でスマホ等によるresponの回答を求めることがあります。また、その回答の集計を表示して、講義者がコメントをすることがあります。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストではありませんが、『ノルウェイの森』（講談社文庫など）に言及することが多いので、読んでおくと授業を理解しやすくなります。他にも村上春樹作品をいくつか読んでおくことをお勧めします。

オフィスアワー

その他特記事項

- ・村上春樹作品を通して文学研究について考えてみたい、という姿勢があれば、村上春樹作品を多く読んでいる必要はありません。また、村上春樹作品については好き嫌いが大きい傾向がありますので、村上春樹作品が嫌いでもかまいません。
- ・授業には毎回出席することが基本ですから、欠席は多くても3回までとご想像ください。内容は入門レベルの授業ですが、履修は100分間の授業に集中できる人に限ります。
- ・教室内では、responで回答するためにスマートフォンを使用できる時間を設けます。一方それ以外の時間は、PCやスマートフォンの使用を禁止します。講義を理解するのに集中する時間と、スマートフォンを用いて調べたり自分の意見を発信したりする時間とを、授業時間内で明確に区分するようにします。
- ・公欠等の理由のある欠席については、原則として学期末にまとめて所定の方法で届出をしてもらいます。緊急に対応が必要な場合を除き、個別指導欄などを使って毎回個別に連絡をすることはしないでください。届出方法は授業内で説明します。なお、公欠等の理由のある欠席について一定の配慮をしますが、配慮のためには、授業後にresponの回答をすることなどが必要です。成績評価の欄にあるように、単純な「出席点」というものはこの授業にはありませんので、公欠届を出すことでそのまま平常点がつくわけではありません。

参考URL

科目名： 近現代文学(2)A

担当教員： 富塚 昌輝

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 水5

配当年次： 1・2年次配当

科目ナンバー： LE-JL1-A213

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:56:46 更新者： AA2033

更新日時： 2024-01-09 19:32:37

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

近代小説を出発せたとされる『小説神髓』という本の中で、坪内逍遙は「小説の主脳は人情なり世態風俗これに次ぐ」と述べています。小説の主目的は、人間の心のあり方や、社会・文化のあり方を描くことにあるということです。このような課題は具体的な小説作品においてどのように実現されているのでしょうか。本講義では、明治時代の評論・小説作品を取り上げ、それぞれの作品がどのような形で人間の心や、社会・文化等を描いているのかについて考察することを目的とします。その上で、近代小説の特質について理解を深めることを目指します。

科目目的

「近代小説」の特質について理解を深め、その点を意識しながら小説を読む力を身につけることを目指します。

到達目標

- 本科目では、以下を到達目標とします。
- ・「近代小説」の特質について理解することができる。
 - ・「近代小説」の特質を踏まえた上で、小説を読解することができる。

授業計画と内容

- ①授業の概要説明―「シングル・ストーリーの危険」と「リスクフル・シンキング」
- ②大学で「文学」を学ぶことの意義①―多読のすすめ
- ③大学で「文学」を学ぶことの意義②―味読のすすめ
- ④坪内逍遙『小説神髓』(1)―「ノベル」の移入
- ⑤坪内逍遙『小説神髓』(2)―小説の役割
- ⑥坪内逍遙『小説神髓』(3)―『小説神髓』の現代的意義
- ⑦二葉亭四迷『浮雲』(1)―文体の変化
- ⑧二葉亭四迷『浮雲』(2)―語り手の視点と作中人物
- ⑨二葉亭四迷『浮雲』(3)―作中人物の内面
- ⑩清水紫琴『こわれ指環』(1)―小説と人称
- ⑪清水紫琴『こわれ指環』(2)―社会と個人
- ⑫幸田露伴『五重塔』(1)―十兵衛の視点から読む
- ⑬幸田露伴『五重塔』(2)―源太の視点から読む
- ⑭総括―「近代小説」を読む意義について

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	50% 期末レポート
平常点	50% 授業確認テスト、ショート・レポート

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

はい

- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】

・坪内逍遙『小説神髓』岩波文庫、2010年

・二葉亭四迷『浮雲』岩波文庫、2004年

上記以外のものは、プリントを配付します。

【参考文献】

授業時に指示します。

オフィスアワー

その他特記事項

授業の展開によっては、取り扱う事柄を変更して進める場合もあります。特別な場合を除き4回を超えて欠席した学生については、評価の対象外とします。

参考URL

備考

科目名： 近現代文学(2)B

担当教員： 富塚 昌輝

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 水5

配当年次： 1・2年次配当

科目ナンバー： LE-JL1-A214

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:56:47 更新者： AA2033

更新日時： 2024-01-09 19:33:00

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、構造分析と物語論の方法について講じます。文学作品の中で、空間や意味がどのように配置されているのか、時間や視点がどのように操作されているのかについて考えます。そのことによって、ストーリー（出来事の推移）を追いかけるだけの読書から脱却し、文学作品を多角的に読解する姿勢を身につけます。

科目目的

文学作品を空間・意味の配置と、時間・視点の操作に注意して読む方法を習得することを目指します。そのことによって文学作品を読む方法について理解を深めるとともに、小説を複数の視角から読解する能力を習得することを目指します。

到達目標

- 本科目では、以下を到達目標とします。
- ・文学作品の構造分析について理解することができる。
 - ・文学作品の語り分析（物語論）について理解することができる。
 - ・構造分析、物語論を用いて文学作品を分析することができる。

授業計画と内容

- ①後期授業の概要説明
- ②構造分析の基礎①—道化と異化
- ③構造分析の基礎②—境界と越境
- ④泉鏡花『龍潭譚』（1）—日常から非日常へ
- ⑤泉鏡花『龍潭譚』（2）—山中異界という空間
- ⑥探偵小説と都市空間（1）—近代都市という空間
- ⑦探偵小説と都市空間（2）—近代都市の表と裏
- ⑧物語論の基礎①—物語言説と物語内容
- ⑨物語論の基礎②—時間、距離、視点、人称
- ⑩中島敦『山月記』（1）—物語論の実践
- ⑪中島敦『山月記』（2）—変調する語り
- ⑫夢野久作『瓶詰地獄』（1）—語りの構造
- ⑬夢野久作『瓶詰地獄』（2）—語りと騙り
- ⑭まとめと総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	50% 期末レポート
平常点	50% 授業確認テスト、ショート・レポート

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

はい

- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】

プリントを配付します。

【参考文献】

授業時に指示します。

オフィスアワー

その他特記事項

授業の展開によっては、取り扱う事柄を変更して進める場合もあります。特別な場合を除き4回を超えて欠席した学生については、評価の対象外とします。

参考URL

備考

科目名： 国語史A

担当教員： 池田 幸恵

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 木5

配当年次： 1・2年次配当

科目ナンバー： LE-JA1-A215

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:56:47 更新者： AA1736

更新日時： 2024-01-07 16:46:15

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

日本語の歴史的变化を時代順に見ていくことにより、日本語の音韻や語彙、文法等について、それぞれがどのような特徴を持ち、どのような変化をしながら現代語につながっているのかを考察する。

科目目的

この科目は、学生が学位授与の方針で示す「幅広い教養」を修得することを目的としています。

到達目標

講義中に出てきた重要語句について、分かりやすく説明できるようになる。
日本語の歴史的变化について、他者に説明できるようになる。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 上代の文献資料
- 第3回 上代の文体—万葉集
- 第4回 上代の文字
- 第5回 上代の音韻
- 第6回 中古の文体—和文
- 第7回 中古の文体—訓点資料
- 第8回 中古の音韻
- 第9回 中古の語彙
- 第10回 中古の文法—用言
- 第11回 中古の文法—助動詞 (1)
- 第12回 中古の文法—助動詞 (2)
- 第13回 中古の文法—助詞
- 第14回 まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 50% 講義で学んだ重要語句や概念について説明できるかどうかを評価します。
- レポート 0%
- 平常点 50% 毎回、講義後に小テストを行います。
- その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】

毎回資料を配付する。

【参考文献】

近藤泰弘他『日本語の歴史(放送大学教材)』放送大学教育振興会、2005
沖森卓也『日本語全史』ちくま新書1249、2017

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 国語史B**担当教員： 池田 幸恵**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：木5

配当年次：1・2年次担当

科目ナンバー：LE-JA1-A216

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:56:48 更新者：AA1736

更新日時：2024-01-07 16:54:55

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

日本語の歴史的变化を時代順に見ていくことにより、日本語の音韻や語彙、文法等について、それぞれがどのような特徴を持ち、どのような変化をしながら現代語につながっているのかを考察する。

科目目的

この科目は、学生が学位授与の方針で示す「幅広い教養」を修得することを目的としています。

到達目標

講義で学んだ重要語句について、分かりやすく説明できるようになる。
古典語から現代語への変化の様相について、他者に説明できるようになる。

授業計画と内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 中世前期の音韻
- 第3回 中世前期の文体・語彙
- 第4回 中世前期の文法
- 第5回 中世後期の文体
- 第6回 中世後期の音韻
- 第7回 中世後期の文法
- 第8回 中世後期の語彙
- 第9回 近世の音韻
- 第10回 近世の文体・語彙
- 第11回 近世の文法
- 第12回 近代の国語政策・言文一致
- 第13回 近代の国語政策・標準語
- 第14回 まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 50% 講義で学んだ重要語句や概念について説明できるかどうかを評価します。
- レポート 0%
- 平常点 50% 毎回、講義後に小テストを行います。
- その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

はい

- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】

毎回資料を配付する。

【参考文献】

近藤泰弘他『日本語の歴史(放送大学教材)』放送大学教育振興会、2005
沖森卓也『日本語全史』ちくま新書1249、2017

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：漢文学A

担当教員：増野 弘幸

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：月1

配当年次：1・2年次担当

科目ナンバー：LE-JL1-A217

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:56:48 更新者：AC7644

更新日時：2023-12-02 11:19:40

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

説明は講義形式、作品は受講者指名による講読形式にて進めて行く。中国最初の詩集である『詩経』より始め、漢代に至るまでの文学作品を詩を中心に時代毎に特徴、背景を考えながら、受講者と共に意見を出し合いながら見てゆく。

科目目的

国文学、日本語を形成する上で漢文及び漢文訓読の果たした役割は大きく、その影響は当然ながら近現代の国文学作品や日本語にも大きな影響を与えている。本科目では、国文学を読み解く、また、国語学を学ぶ上で重要な漢文訓読の手法を中心に作品を読み解きながら会得することを目指す。

到達目標

授業で取り上げた文学作品の読解が充分に出来る様になり、更に作品の持つ時代背景、中に籠められた意味についても深く理解出来る様にしたい。また、授業以外で出会う漢文資料について訓読や理解をある程度行える様にしてゆきたい。

授業計画と内容

- 1 漢文訓読に関する基礎的知識の確認。
- 2 基本文型Ⅰ、Ⅱを利用した作文による語順の把握。
- 3 基本文型Ⅲ、Ⅳを利用した作文による語順の把握。
- 4 基本文型Ⅴおよび応用を利用した作文による語順の把握。
- 5 『詩経』の詩の特徴説明と作品の鑑賞。
- 6 『詩経』の詩の特徴説明と「桃夭」の鑑賞。
ここでは朱熹の注を併せて読み、注に基づいての詩の解釈の方法も訓練する。
- 7 『詩経』の詩の特徴説明と「采芣」の鑑賞。
ここでは詩序毛伝鄭箋ならびに朱熹の注を併せて読み、注釈による違いを理解する。
- 8 『楚辞』の特徴説明と「漁夫之辞」、「離騷」の鑑賞。
- 9 漢代の辞賦について。
- 10 漢代の楽府の特徴説明を作品の鑑賞。
- 11 漢代楽府詩の読み取り。
- 12 古詩十九首の特徴説明と作品の鑑賞。
- 13 古詩十九首の特徴説明と読み取り。
- 14 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | | |
|------|-----|---|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 80% | 漢文の訓読力、解釈力、理解力について授業を通じてどの程度自身の学力となったかについて評価する。 |
| レポート | 0% | |
| 平常点 | 20% | 毎回課される小テストの提出状況とその提出による出席状況进行评估する。 |

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う

✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

小テストにおいて目立った犯しやすい誤りなどあった場合、また、掲示板での質問について参加者が共有した方が良いと判断した場合には、コースニュースを通じて周知する。

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

はい
✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

プリントを使用する。参考文献については授業時に紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

訓読は日頃の修練の積み重ねであるので、授業の進行に合わせてテキストの漢文を辞書を用いながら読む努力を続ける。

参考URL

備考

この科目は教職 (国語) の必修科目です。

科目名：漢文学B**担当教員：増野 弘幸**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：月1

配当年次：1・2年次配当

科目ナンバー：LE-JL1-A218

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:56:49 更新者：AC7644

更新日時：2023-12-02 11:20:15

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

説明は講義形式、作品は受講者指名による講読形式にて進めて行く。後期は魏晋六朝から唐に至るまでの文学作品を詩を中心に時代毎に特徴、背景を考えながら、受講者にも意見を尋ねながら見てゆく。

科目目的

国文学、日本語を形成する上で漢文及び漢文訓読の果たした役割は大きく、その影響は当然ながら近現代の国文学作品や日本語にも大きな影響を与えている。本科目では、国文学を読み解く、また、国語学を学ぶ上で重要な漢文訓読の手法を中心に作品を読み解きながら会得することを目指す。

到達目標

授業で取り上げた文学作品の読解が充分に出来る様になり、更に作品の持つ時代背景、中に籠められた意味についても深く理解出来る様になりたい。また、授業以外で出会う漢文資料について訓読や理解をある程度行える様にしてゆきたい。

授業計画と内容

- 1、魏の建安詩の読解。
- 2、魏の建安詩の作品読解とその特徴について。
- 3、魏の正始詩の読解。
- 4、魏の正始詩の作品読解とその特徴について。
- 5、西晋期から東晋期における詩の変化。
- 6、東晋の詩の読解。
- 7、陶淵明詩読解とその特徴について。
- 8、陶淵明「帰去来辞」読解。
- 9、「帰去来辞」における寓意の理解。
- 10、近体詩の格律について。
- 11、初唐期の詩の読解とその特徴について。
- 12、盛唐期の詩の読解。
- 13、盛唐期の詩の読解とその特徴について。
- 14、総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	80% 漢文の訓読力、解釈力、理解力について授業を通じてどの程度自身の学力となったかについて評価する。
レポート	0%
平常点	20% 毎回課される小テストの提出状況とその提出による出席状況の評価する。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う

✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

小テストにおいて目立った犯しやすい誤りなどあった場合、また、掲示板での質問について参加者が共有した方が良いと判断した場合には、コースニュースを通じて周知する。

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

はい
✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

プリントを使用する。参考文献については授業時に紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

訓読は日頃の修練の積み重ねであるので、授業の進行に合わせてテキストの漢文を辞書を用いながら読む努力を続ける。出来るだけ受講生自らが読む機会を作りながら解説を行ってゆくので、予めきちんと予習をした上で授業に臨んで欲しい。

参考URL

備考

この科目は教職 (国語) の必修科目です。

科目名： 日本語教育A

担当教員： 木谷 直之

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 土2

配当年次： 1・2年次配当

科目ナンバー： LE-JA1-A302

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:56:51 更新者： AC7900

更新日時： 2024-01-06 06:37:02

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義は、大きく二つの内容に分けられます。

前半は、国内外で行われている多様な日本語教育の現場を紹介し、学習目標や学習環境などの違いによって日本語学習の内容と方法がいかに多様であるかを見ます。特に、日本の学校で学ぶ日本語以外の言語を母語とする児童生徒を対象とした日本語教育と、日本で働きながら日本語を学ぶ「生活者としての外国人」を対象にした日本語教育の現状に焦点を当てて講義を進めます。

後半は、ノンネイティブ日本語教師や日本語学習者の視点から、「外国語としての日本語」を教える／学ぶ上でどのようなおもしろさや難しさがあるのかを考えます。日本語を母語とする私たち日本人にはなかなか気づけない「外国語としての日本語」の特徴に焦点を当てて講義を進めます。

科目目的

大きく2つの目的があります。

- ①学習環境や学習目標、学習ニーズ等の観点から、日本語教育がその内容と方法においていかに多様であるかを知り、後期の日本語教授法の多様性を考える基礎知識を身につけること。
- ②「外国語としての日本語」がどのような特徴を持っているかを知り、後期の日本語教授法の講義につながる基礎知識を身につけること。

到達目標

以下の4点を到達目標とします。

- ①学生の皆さんが日本国内の日本語教育と海外の日本語教育の現状を知り、現在の日本語教育がどのような広がりをもっているかを知り、自分の言葉で説明できるようになること。
- ②学生の皆さんが日本語教育の多様性について知り、特に年少者に対する日本語教育と、成人に対する日本語教育の異同について、自分の言葉で説明できるようになること。
- ③学生の皆さんが「外国語」として「日本語」を学ぶという視点から、自分の母語がどのような特徴を持った言語なのかを知り、「国語」との違いを意識できるようになること。
- ④学習環境、学習目標、学習方法、教科書・教材等の視点から、国内外の日本語教育の多様性を知るとともに、これまでの自身の外国語学習経験をふり返る契機とすること。

授業計画と内容

- 第1回：講義の導入・日本語教育の多様性（国内・国外の日本語教育の現状の概観）
- 第2回：年少者の外国語教育および日本語教育を考える際に重要になる観念の整理
- 第3回：国内の外国人児童生徒のための日本語教育の現状と課題
- 第4回：海外の中等教育機関における日本語教育の現状と課題
- 第5回：海外の中等教育機関における日本語教育、特に異文化理解教育との関連について
- 第6回：「生活者としての外国人」に対する日本語教育の現状と課題
- 第7回：「生活者としての外国人」に対する日本語教育、特に目的別日本語教育について

- 第8回：外国語としての日本語 (1) -学校文法と日本語教育文法-
- 第9回：外国語としての日本語 (2) -主語と主題-
- 第10回：外国語としての日本語 (3) -視点-
- 第11回：外国語としての日本語 (4) -テンス-
- 第12回：外国語としての日本語 (5) -アスペクト-
- 第13回：外国語としての日本語 (6) -モダリティ-
- 第14回：外国語としての日本語 (7) -談話-

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	70%	2つのテーマでレポート提出。テーマは授業中に伝えます。 評価のポイントは、講義の内容を踏まえて、自分自身の外国語学習経験を批判的に分析・考察しまとめることができているかどうかを評価します。
平常点	30%	授業への参加および受講態度を確認するために、毎回の授業後にリアクションペーパーを提出してもらいます。 リアクションペーパーに書く内容は、以下の2つ。 ①授業を受けて気が付いたこと、発見したこと、新しく知ったこと、自身の経験と関連付けて理解できたことなど。 ②授業の内容について疑問に思ったこと、質問したいこと。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

私は国際交流基金(日本語国際センター)で25年余り仕事をしてきました(2021年3月末に定年退職しました)。国際交流基金は、日本と海外の国々との文化交流を支援・促進するための独立行政法人です。国際交流基金は、大きく、①文化芸術交流、②日本語教育、③日本研究・知的交流の3つの交流事業に携わっています。私は専任講師として、②の日本語教育事業に携わってきました。私が所属していた国際交流基金日本語国際センターは、世界のさまざまな国や地域で日本語を教えている日本語教師(多くはノンネイティブ教師)を日本に招聘し、日本語と日本語教授法を中心とした教師研修を行っています。年間、400人以上の海外の日本語教師が日本を訪れ、短い研修で1か月、長い研修では6か月間、日本で研修を受けています。ただし、2020~2021年度は、世界的なコロナ・ウィルス感染拡大の影響を受け、訪日研修が実施できず、オンライン型の研修事業を行ってきました。また、国際交流基金は、海外での事業遂行のため、世界各地に30余の海外センターおよび海外事務所を展開しています。私はこれまでエジプト(カイロ大学)、英国(ロンドン日本文化センター)、インドネシア(ジャカルタ日本文化センター)に赴任し、計8年半ほど海外で高等教育機関での日本語教育および初中等教育段階のノンネイティブ日本語教師支援の仕事をしてきました。

国際交流基金退職後は、多文化共生センター東京の日本語講師として、海外の中学校を卒業し日本の高校への進学を希望している外国人生徒の日本語および教科（特に数学と英語）の学習支援の仕事をしています。海外の多様な学習環境のもとで小学校・中学校時代を過ごしてきた生徒たちが、日本の高校に進学するためには、日本語や各教科の学習だけではなく、日本の学校生活や学校文化、日々の生活習慣等についても学び慣れていくことが必要です。「日本語教育A」では、上述のような実務経験から得た知識や情報、経験を活かしながら、講義を進めたいと考えています。

実務経験に関連する授業内容

私の実務経験と授業内容との関連は、以下の2点です。

まず、私は職務上、海外の日本語教師の皆さんと直接、いろいろなやりとりをする機会が多く、その中で海外の日本語教育の現場でどのような課題や問題があるのかについて情報・意見交換をしています。また、留学や仕事のために来日する外国人の皆さんが日本で学習や研究を進める上で、あるいは日々の生活を送る中でどのような課題や問題を感じているかについても、情報・意見交換をしています。そのような実務の中で得た情報や知識を、「日本語教育A」の講義の中で織り交ぜてお話しようと考えています。

次に、私は、海外で日本語を教えるノンネイティブの教師の皆さんとのやりとりの中で、世界中のさまざまな言語と日本語を比較対照しながら日本語の特徴を考える機会を多く得てきました。日本語の文字、日本語の音声、日本語の語彙、日本語の文法などについて、日本語が他の言語と比べて、一つの言語として、どのような特徴を持っているのかを、学生の皆さんにお話しできればと考えています。私たちは、自分の母語である日本語を、ごく当たり前のように、何も疑問を感じることなく、日々の生活で使っていますが、その日本語を「外国語」として学び、身につけてきた外国人の目から見て、日本語にどのような特徴があるのかを、学生の皆さんに具体的にお話できればと考えています。

テキスト・参考文献等

参考文献等は授業時に随時紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

この科目は教職（国語）の必修科目です。

科目名： 日本語教育B**担当教員： 木谷 直之**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：土2

配当年次：1・2年次配当

科目ナンバー：LE-JA1-A303

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:56:51 更新者：AC7900

更新日時：2024-01-06 06:38:39

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

国内外の日本語教室で実際に日本語がどのように学ばれ、教えられているのかを教材・教具や教授法の面から概観します。主要な教授法の背景にどのような理論があるのか、言語学や教育心理学、認知言語学、第二言語習得研究などの視点から紹介します。そして、日本語教育研究がどのように行われているか、研究と実践の連携に焦点を当てて考えます。

科目目的

大きく2つの目的があります。

- ①さまざまな教授法理論がどのように生まれてきたのか、実際の現場でどのように用いられてきたのか、どのような長所・短所を持っているのかなど、これまでの日本語教育を支えてきた教授法理論について基礎知識を得ること。
- ②「第二言語習得研究」がこれまで明らかにしてきたことを知り、その知見が実際の教育現場でどのように活用されているかを知ること。

到達目標

以下の4点を到達目標とします。

- ①学生の皆さんがさまざまな外国語教授法の理論的背景と実際の方法を知り、日本語教育の現場で日本語がどのように教えられてきたかを自分の言葉で説明できるようになること。
- ②学生の皆さんが講義を通して学んだ教授法の考え方をを用いて、自分自身の外国語学習経験を批判的に分析・考察できるようになること。
- ③学生の皆さんが「第二言語習得研究」がこれまで明らかにしてきた重要な知見を知り、自分自身の外国語学習経験を「第二言語習得」の観点から批判的に分析・考察できるようになること。
- ④日本語教育に関連して、どのような調査研究が行われ、その結果、どのようなことが明らかにされてきたかを知り、外国語学習・教授の分野に興味関心を持つこと。

授業計画と内容

- 第1回：導入・日本語を教えるということ
- 第2回：第一言語習得 (First Language Acquisition) の研究
- 第3回：第一言語習得の研究に影響を受けた教授法 - 外国語教授法の歴史の変遷 -
- 第4回：オーディオリンガル・メソッド (1) - 理論的背景 -
- 第5回：オーディオリンガル・メソッド (2) - 練習方法 -
- 第6回：コミュニカティブ・アプローチ (1) - 理論的背景 -
- 第7回：コミュニカティブ・アプローチ (2) - 教授技術と授業設計 -
- 第8回：教材分析 - 代表的な日本語教科書を分析し、練習方法や教室活動の実際を知る -
- 第9回：評価方法、特にパフォーマンス評価の方法を考える
- 第10回：自然習得と教室習得
- 第11回：第二言語習得理論 (1) - 中間言語 -
- 第12回：第二言語習得理論 (2) - 5つの仮説 -
- 第13回：第二言語習得理論 (3) - インプットからアウトプットへ -
- 第14回：第二言語習得理論 (4) - 授業設計のガイドライン -

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	70%	レポートのテーマは2つあります。テーマの詳細は、授業の中で連絡します。 レポートの評価では、講義の中で紹介した外国語教授法の理論や実際の教授法の観点から、自分自身の外国語学習の経験を批判的に分析・考察し、まとめることができているかどうかを評価します。いろいろな教授法理論を説明するだけでなく、その考え方を使得自分自身の外国語学習経験(教えたことがある人は教授経験)を考察できているかどうかを評価のポイントになります。
平常点	30%	毎回の授業のあとで、リアクションペーパーの提出を課します。リアクションペーパーには、①講義を受けて新しく知ったこと、自分の経験と関連付けて気が付いたこと/発見したこと、特に興味を持ったこと、②講義の内容について疑問に感じたこと、質問したいことの2点について自由に書いてもらいます。リアクションペーパーの記述内容から、講義の理解度、授業への参加度などを総合的に評価します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

私は国際交流基金(日本語国際センター)で25年余り仕事をしています。国際交流基金は、日本と海外の国々との文化交流を支援・促進するための独立行政法人です。国際交流基金は、大きく、①文化芸術交流、②日本語教育、③日本研究・知的交流の3つの交流事業に携わっています。私は専任講師として、②の日本語教育事業に携わってきました。私が所属していた国際交流基金日本語国際センターは、世界のさまざまな国や地域で日本語を教えている日本語教師(多くはノンネイティブ教師)を日本に招聘し、日本語と日本語教授法を中心とした教師研修を行っています。年間、400人以上の海外の日本語教師が日本を訪れ、短い研修で1か月、長い研修では6か月間、日本で研修を受けています。ただし、2020~2021年度は、世界的なコロナ・ウィルス感染拡大のため、訪日研修が実施できず、代わりにオンライン型の研修事業を期間と内容を変え行ってきました。また、国際交流基金は、海外での日本語教育支援のため、30余の海外センターおよび会議事務所を持っています。私はこれまでエジプト(カイロ大学)、英国(ロンドン日本文化センター)、インドネシア(ジャカルタ日本文化センター)に赴任し、計8年半ほど海外で、主に高等教育段階の日本語教育支援と、初中等教育段階のノンネイティブ日本語教師に対する研修事業の仕事をしてきました。国際交流基金退職後は、多文化共生センター東京の日本語講師として、海外の中学校を卒業し日本の高校への進学を希望している外国人生徒の日本語および教科(特に数学と英語)の学習支援の仕事をしています。海外の多様な学習環境のもとで小学校・中学校時代を過ごしてきた生徒たちが、日本の高校に進学するためには、日本語や各教科の学習だけではなく、日本の学校生活や学校文化、日々の生活習慣等についても学び慣れていくことが必要です。「日本語教育B」では、その実務経験から得た知識や情報、経験を活かしながら、講義を進めたいと考えています。

実務経験に関連する授業内容

私の実務経験と授業内容との関連は、以下の2点です。

まず、私は職務上、海外の日本語教師の皆さんと直接、いろいろなやりとりをする機会が多く、その中で海外の日本語教育の現場でどのような教材や教具、教授法が用いられているか、そして、その教授法にどのような課題や問題点があるかについて情報・意見交換をしています。また、私自身がさまざまな学習背景を持つ学習者に日本語を教えてきた教授経験の中で、諸々の教授法のいい点、足りない点等について考えてきました。それらの経験を踏まえて、実際に日本語教育の現場で日本語の教え方と学び方について、どのような試行錯誤が行われているのかを講義の中でお話ししたいと思っています。

次に、私は、海外の職場で仕事をする中で「第二言語習得研究」に興味を持ち、大学や大学院の学生に研究指導する中で、第二言語習得研究の成果を現場の教え方にどのように活かしていけばいいかについて考えてきました。私がずっと携わってきた教師研修の授業やワークの中でも第二言語習得研究の知見を活かした教え方について、学生や同僚の教師とディスカッションを重ねてきました。日本語教育Bの講義では、第二言語習得研究でこれまでの重要な知見を紹介・説明し、それらが現場でどのように活用されているかについても、具体的な例を交えながらお話ししたいと考えています。

テキスト・参考文献等

参考文献等は授業時に随時紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

この科目は教職（国語）の必修科目です。

科目名：国文学作家作品研究(1)A**担当教員：吉野 瑞恵**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：月4

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JL3-A401

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:56:53 更新者：AD0054

更新日時：2024-01-08 10:56:15

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

『源氏物語』に描かれた執着の恋

この講義では、『源氏物語』に描かれた恋に身を滅ぼす二人の登場人物を取り上げ、この物語が人間の執着の問題をどのように扱おうとしていたのかについて考える。さらに、『源氏物語』以降の文学作品に、執着の問題がどう継承されていくのかについても見ていきたい。

具体的には、光源氏に対する執着のあまり、生霊となって正妻の葵の上を取り殺してしまう六条御息所をめぐる物語と、光源氏が四十歳になってから迎えた若く高貴な妻・女三の宮に恋をして身を滅ぼす柏木をめぐる物語を取り上げる。

さらに、鎌倉時代に書かれた宮廷女性の自伝『とはずがたり』において、柏木の恋がどのように継承されているのか考察する。

科目目的

この科目は、学位授与の方針である国文学専攻の学問分野において求められる専門的な知識を身につけることを目的とする。

到達目標

この科目では、以下を到達目標とします。

- ・『源氏物語』や『とはずがたり』について、その表現の特徴を説明できるようになること。
- ・『源氏物語』を原文で読解し、深く理解できるようになること。

授業計画と内容

- 第1回 授業ガイダンス
- 第2回 『源氏物語』概説
- 第3回 光源氏、六条御息所のもとに通う（「夕顔」巻）
- 第4回 六条御息所、生霊になる（「葵」巻）
- 第5回 六条御息所、伊勢に下る（「賢木」巻）
- 第6回 柏木、女三宮を垣間見する（「若菜上」巻）
- 第7回 柏木、女三宮と密通する（「若菜下」巻）
- 第8回 柏木、執着を残して死去する（「柏木」巻）
- 第9回 『源氏物語』は執着の問題をどのように扱っているのか
- 第10回 『とはずがたり』概説
- 第11回 二条と有明の月の恋
- 第12回 有明の月の起請文
- 第13回 有明の月の死
- 第14回 総括・まとめ・到達度確認

なお、扱う場面についてはシラバスと異なる場合があります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	60%	『源氏物語』における執着の恋の描かれ方の特色と、そこから影響を受けた『とはずがたり』の表現の特色について説明できる。 授業中に取り上げた場面について正しく解釈できる。
レポート	0%	
平常点	40%	毎回リアクションペーパーを提出してもらい、授業の参加度および理解度を評価する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

以下のテキストをコピーして配布する。参考文献については授業中に適宜紹介する。
『源氏物語』1～6 (阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男 校注・訳) 小学館新編日本古典文学全集
『建礼門院右京大夫集 とはずがたり』(久保田淳 校注・訳) 小学館新編日本古典文学全集

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：国文学作家作品研究(1)B

担当教員：吉野 瑞恵

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：月4

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JL3-A402

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:56:53 更新者：AD0054

更新日時：2024-01-08 20:05:47

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

『源氏物語』に登場する中流貴族女性たち

平安時代の物語は、中流貴族女性たちによって生み出されたと考えられるにもかかわらず、上流貴族の社会を舞台にしており、中流貴族たちが前面に出てくることはない。光源氏の恋の相手となるのも、藤壺や紫の上、六条御息所など、多くは上流貴族の女性たちである。そのような中で、上流貴族ではないものの、独自の存在感を持った女性たちが登場する。中流貴族の後妻となった空蝉や、受領の娘として育った明石の君などである。その他にも上流貴族に仕える女房たちの多くは中流貴族の出身で、彼女たちは物語の中で目立たないものの欠かせない存在でもある。

この講義では、これらの女性たちがどのように描かれているのか考えてみたい。具体的には次のような問題について考察する予定である

- ① 上流貴族男性は中流貴族女性をどのように見ていたのか。平安時代の身分意識の特色。
- ② 物語は身分違いの恋をどのように語ろうとしているのか。

科目目的

この科目は、学位授与の方針である国文学専攻の学問分野において求められる専門的な知識を身につけることを目的とする。

到達目標

この科目では、以下を到達目標とします。

- ・ 平安時代の文化や社会の特徴について説明できるようになること。
- ・ 『源氏物語』を原文で深く読解できるようになること。

授業計画と内容

- | | |
|------|----------------------|
| 第1回 | 授業ガイダンス |
| 第2回 | 『源氏物語』概説 |
| 第3回 | 中の品の女(帚木巻) |
| 第4回 | 光源氏と空蝉との契り(帚木巻) |
| 第5回 | 空蝉の複雑な心中(帚木巻・空蝉巻) |
| 第6回 | 謎の女性・夕顔(夕顔巻) |
| 第7回 | 光源氏と明石の君との出会い(明石巻) |
| 第8回 | 明石の君出産(漣標巻) |
| 第9回 | 明石の君上京(松風巻) |
| 第10回 | 明石の姫君、紫の上の養女となる(薄雲巻) |
| 第11回 | 夕霧の恋人・藤典侍(少女巻・藤裏葉巻) |
| 第12回 | 浮舟の母・中将の君 |
| 第13回 | 『源氏物語』の召人たち |
| 第14回 | 総括・まとめ・到達度確認 |

*扱う場面や巻については、シラバスと異なる場合もあります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	60%	『源氏物語』に登場する中流貴族女性の特徴について、具体的な場面に即して説明できるかどうかを評価する。
レポート	0%	
平常点	40%	毎回リアクションペーパーを提出してもらい、授業の参加度および理解度を評価する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

以下のテキストをコピーして配布する。参考文献については授業中に適宜紹介する。
『源氏物語』1～6（阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男 校注・訳） 小学館新編日本古典文学全集

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：国文学作家作品研究(2)A

担当教員：山下 真史

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：月2

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JL3-A403

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:56:53 更新者：AA0325

更新日時：2024-01-09 00:54:10

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

昭和12年に始まった日中戦争に材を取った作品を取り上げ、戦争がどのように描かれたかを詳細に読解していきます。具体的には、石川達三の「生きてゐる兵隊」「武漢作戦」、火野葦平の「土と兵隊」「麦と兵隊」などを取り上げます。また、当時の戦争と文学の関わり方、文学界の動向についても見ていきます。

この授業では、テキストの読解が中心ですが、「土と兵隊」の映画や軍歌なども参照しながら、当時の戦争の描かれ方を考えていきます。

科目目的

近現代文学の研究は、個々の作品の読みを深め、同時代との関係を見極め、文学史を構築することが大きな目標であると考えます。戦争に作家たちがどう対峙したかをきちんと理解することは、昭和文学のみならず、近代文学の歴史を考える上で重要です。感情的な批判ではなく、時代状況を踏まえて読むことで、作品に対する理解も変わってくるでしょう。今回取り上げるのは、15年戦争中の一時期、一局面ですが、二人の作家を比べて読むことで、文学が果たした役割を考えることが目標です。

到達目標

昭和の初めから、昭和6年の満州事変に始まり、昭和20年の敗戦に至るまでのいわゆる十五年戦争の中で、文学が積極的に戦争に関わり始めた昭和12、13年頃の文学状況を理解します。その上で、筆禍事件を引き起こした「生きてゐる兵隊」や、ベストセラーとなった「麦と兵隊」などを読み、二人の作家の姿勢を理解します。時代状況を背景に作品を詳細に読み解く能力を身につけます。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス、近代における戦争と文学概説
- 第2回 昭和の戦争と文学
- 第3回 石川達三の人となりと芥川賞受賞の「蒼氓」
- 第4回 「生きてゐる兵隊」の背景と作品の読解
- 第5回 「生きてゐる兵隊」の人間像
- 第6回 「武漢作戦」の読解と石川達三の戦後
- 第7回 火野葦平の人となりと芥川賞受賞の「糞尿譚」
- 第8回 「土と兵隊」の背景と映画
- 第9回 「土と兵隊」の読解
- 第10回 「麦と兵隊」の読解
- 第11回 「麦と兵隊」の人間像
- 第12回 戦記文学の作家たち
- 第13回 到達度確認
- 第14回 戦中と戦後の戦争文学についての総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	80% 時間を限って試験を行い、知識が身についたかどうかを評価します。
レポート	20% 2回程度、ショートレポートの提出を求める予定です。
平常点	0%
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは石川達三『生きていた兵隊』(中公文庫)、火野葦平『麦と兵隊・土と兵隊』(角川文庫)を用います。その他の作品は、必要に応じてプリントを配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：国文学作家作品研究(2)B

担当教員：山下 真史

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：月2

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JL3-A404

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:56:54 更新者：AA0325

更新日時：2024-01-09 11:43:05

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

戦後文学は、第一次戦後派、第二次戦後派、第三の新人という大きな分け方が出来ませんが、その三派の中から一人ずつの作家を取り上げ、戦後文学の様相を見ていきます。具体的には梅崎春生「桜島」「日の果て」、島尾敏雄「夢の中の日常」「出発は遂に訪れず」、小島信夫「小銃」「汽車の中」を取り上げます。いずれも戦争体験に基づいた作品ですが、戦時中の戦争の描き方とは大きく違います。戦後、戦争がどう描かれたかを時代状況とともに分析していきます。

科目目的

近現代文学の研究は、個々の作品の読みを深め、同時代との関係を見極め、文学史を構築することが大きな目標であると考えます。戦争を戦後、どう描いたかは昭和文学史にとって重要な課題です。この授業では、戦争中には検閲のために書けなかったことがどのように描かれているのか、戦後、作家たちが戦争をどう捉えたかを作品に即して見ていくことで、作品の解釈と、戦後文学の動向を明らかにすることを目的とします。

到達目標

戦後、それまでの価値観が一変して、自由と民主主義が旗印となりますが、その中で、戦争がどのように描かれていたのか、作家たちが戦後社会の状況をどのように捉えていたのかを理解します。時代が下るにつれて変わっていく戦後社会のあり方、文学のあり方代について理解し、時代背景を念頭に置いて、作品を読み解く能力を深めます。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス、戦争と文学について
- 第2回 戦後文学の動向の概観
- 第3回 梅崎春生の人となり、「桜島」の注釈
- 第4回 「桜島」の読解
- 第5回 「日の果て」の注釈
- 第6回 「日の果て」の読解
- 第7回 島尾敏雄の人となり、「夢の中の日常」の注釈
- 第8回 「夢の中の日常」の読解と、「出発は遂に訪れず」の注釈
- 第9回 「出発は遂に訪れず」の読解
- 第10回 小島信夫の人となり、「小銃」の注釈
- 第11回 「小銃」の読解と、「汽車の中」の注釈
- 第12回 「汽車の中」の読解
- 第13回 到達度確認
- 第14回 戦争を描く文学のその後についての総括

*取り上げる作品は、受講者の希望に応じて若干変更することもあり得る。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	80%
レポート	0%
平常点	20%
その他	0%

時間を限って試験を行い、授業内容が理解出来たかどうかを評価します。

授業中で、数回課す予定のショートレポートを評価します。

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
 - グループワーク
 - プレゼンテーション
 - 実習、フィールドワーク
 - その他
 - 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは、以下の三冊を用います。
梅崎春生「桜島・日の果て・幻花」(講談社文芸文庫)
島尾敏雄「出発は遂に訪れず」(新潮文庫)
小島信夫「アメリカン・スクール」(新潮文庫)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 日本漢文学A**担当教員： 小野 泰央**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：水1

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JL3-A405

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:56:55 更新者：AA1728

更新日時：2023-11-24 18:16:36

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

古代から中古に至る古典においていかに中国文学および日本漢文学が影響をしていくかを通史的にみていく。特に漢字・典籍の将来から始まり、平安時代の仮名文学に至るまでどのように漢文学が日本の古典に関係するかを解き明かす。

科目目的

この科目は、カリキュラム上の専攻科目群として位置づけられていることから、専攻における知識の一つとして、古典におけるその背景を理解した作品研究を目的とする。

到達目標

- この科目では、以下を到達目標とします。
- ・日本漢文が読めるようになる。
 - ・古典のなかの漢文の位置を理解出来るようになる。

授業計画と内容

- 課題解決型の学習
- 第1回 古代日本漢文学の意義
 - 第2回 十七条憲法と論語・文選—儒教の伝来
 - 第3回 古事記と唐代小説—異界の話型
 - 第4回 日本書紀と莊子—聖帝
 - 第5回 万葉集と初唐詩—古代和歌と漢詩
 - 第6回 菅家後集と白氏文集—「閑適」と「諷諭」
 - 第7回 古今集序と詩経—「六義」「斯文」
 - 第8回 天徳關詩と擬古詩—句題詩の形式
 - 第9回 蜻蛉日記と千載佳句—女兒への漢文教育
 - 第10回 源氏物語と白氏文集—長恨歌と官女
 - 第11回 和漢朗詠集と白氏文集—朗詠
 - 第12回 本朝文粹と文選—賦の文体
 - 第13回 江談抄と作文大体—句題詩詩論
 - 第14回 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | | |
|------|-----|---|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 50% | 日本漢文についての基礎知識を理解した上で、古典文学を社会的背景から説明できるかどうかを評価します。 |
| レポート | 50% | レポート状況を基準とします。 |
| 平常点 | 0% | |

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

はい

- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業時にレジュメを配布する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 日本漢文学B

担当教員： 小野 泰央

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 水1

配当年次： 3・4年次担当

科目ナンバー： LE-JL3-A406

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:56:56 更新者： AA1728

更新日時： 2023-11-24 18:16:48

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

中世から近世に至る古典においていかに中国文学および日本漢文学が影響をしていくかを通史的にみていく。特に漢文学の学力が低下して歌学が台頭してきた時代を経て、五山文学がどのように宋学を受け入れて、更に近世の儒学へと継承されていったかを軸に論じる。

科目目的

この科目は、カリキュラム上の専攻科目群として位置づけられていることから、専攻における知識の一つとして、古典におけるその背景を理解した作品研究を目的とする。

到達目標

- この科目では、以下を到達目標とします。
- ・日本漢文が読めるようになる。
 - ・古典のなかの漢文の位置を理解出来るようになる。

授業計画と内容

課題解決型の学習

- 第1回 中世近世日本漢文学の意義
- 第2回 俊頼髄脳と唐代説話一説話の生成
- 第3回 本朝無題詩と宋代詩話一集句
- 第4回 今昔物語集と冥報記一ヲコト点
- 第5回 台記と経典一古記録の文学性
- 第6回 民経記と擬古物語一物語製作の背景
- 第7回 賦光源氏物語詩と白居易一擬古詩
- 第8回 濟北集と詩人玉屑一「三偷」
- 第9回 義堂周信と杜甫一文章一小伎論
- 第10回 狂雲集と高等賦一五山艶詩
- 第11回 三体詩抄と三体詩一中世の注釈
- 第12回 荻生徂徠と清代詩文論一近世詩文論
- 第13回 近代小説家の漢詩一森鷗外・夏目漱石と晋・唐詩
- 第14回 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | | |
|------|-----|---|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 50% | 日本漢文についての基礎知識を理解した上で、古典文学を社会的背景から説明できるかどうかを評価します。 |
| レポート | 50% | レポート状況を基準とします。 |

平常点 0%
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業時にレジュメを配布する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：日本文学研究史A**担当教員：竹田 志保**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：水4

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JL3-A407

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:56:56 更新者：AA2346

更新日時：2024-01-08 22:07:28

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この講義では「日本近代文学」の研究においてこれまで用いられてきた方法論を取り上げ、それぞれの理論の特徴について解説します。また、具体的なテキストと合わせて実践的にその理論を理解し、研究史上の意義について考察します。この科目では、作家論、テキスト論などの方法について解説します。理論の概説ののち、関連する作品や研究論文を読み解きながら、研究の流れを俯瞰します。

科目目的

「日本近代文学」の研究の歴史を概観し、「文学研究」を行う上での基礎的な知識及び技術を身につけることを目的とします。また、それぞれの研究方法が求められた文化的背景や思想的背景を考えることによって、研究方法についての理解を深めることを目指します。

到達目標

文学研究の基礎的な知識を習得し、文学作品に対して理論的なアプローチができるようになることを目標とします。

授業計画と内容

- 1 ガイダンス、授業の概要の説明
- 2 「文学研究」の歴史と現在
- 3 作家論① 歴史と理論
- 4 作家論② 小説・論文読解
- 5 作家論③ 作家論からの発展
- 6 テキスト論① 歴史と理論（構造主義、記号論）
- 7 テキスト論② 歴史と理論（ナラトロジー）
- 8 テキスト論③ 小説・論文読解
- 9 テキスト論④ 歴史と理論（脱構築批評）
- 10 テキスト論⑤ 小説・論文読解
- 11 テキスト論⑥ 歴史と理論（生成論）
- 12 テキスト論⑦ 歴史と理論（インターテクスチュアリティ）
- 13 テキスト論⑧ 小説・論文読解
- 14 授業のまとめと総括：理論的アプローチの意義
(内容は変更する場合があります。)

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業で扱う作品を事前資料として配布して、コメントなどを求めることがあります。必ず予習した上で授業に臨んでください。また、配布された授業資料は講義後によく見直して理解に努めてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | |
|------|--------------------------------------|
| 中間試験 | 0% |
| 期末試験 | 0% |
| レポート | 40% 学期末に、授業内容に関するテーマでレポートを提出してもらいます。 |

- 平常点 60% 授業時に小テスト・コメントの提出を求めます。平常点とは、これらの授業内課題の内容による評価のことを言います。
- その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

毎回、授業に出席することが基本ですから、欠席が半期に3回を超える場合は原則として成績評価の対象から除外します。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- 【テキスト】
購入してもらうテキスト等はありません。取り上げる作品・論文については、プリント、PDFなどを配布します。
- 【参考文献】
授業内で適宜紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

小説作品や論文などは事前に配布します。授業内での解説の前に、各自が通読していることが前提の授業となります。十分な予習が必要な授業ですので、承知しておいてください。

参考URL

備考

科目名：日本文学研究史B

担当教員：竹田 志保

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：水4

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JL3-A408

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:56:56 更新者：AA2346

更新日時：2024-01-08 22:08:21

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この講義では「日本近代文学」の研究においてこれまで用いられてきた方法論を取り上げ、それぞれの理論の特徴について解説します。また、具体的なテキストと合わせて実践的にその理論を理解し、研究史上の意義について考察します。この科目では、ポストコロニアル批評、ジェンダー／クィア批評、カルチュラルスタディーズなどの方法について解説します。理論の概説ののち、関連する作品や研究論文を読み解きながら、研究の流れを俯瞰します。

科目目的

「日本近代文学」の研究の歴史を概観し、「文学研究」を行う上での基礎的な知識及び技術を身につけることを目的とします。また、それぞれの研究方法が求められた文化的背景や思想的背景を考えることによって、研究方法についての理解を深めることを目指します。

到達目標

文学研究の基礎的な知識を習得し、文学作品に対して理論的なアプローチができるようになることを目標とします。

授業計画と内容

- 1 ガイダンス、授業の概要の説明
- 2 ポストコロニアル批評① 歴史と理論
- 3 ポストコロニアル批評② 小説・論文読解
- 4 ポストコロニアル批評③ ポストコロニアリズム批評からの発展
- 5 ジェンダー／クィア批評① 歴史と理論（フェミニズム批評）
- 6 ジェンダー／クィア批評② 歴史と理論（ジェンダー批評）
- 7 ジェンダー／クィア批評③ 歴史と理論（クィア批評）
- 8 ジェンダー／クィア批評④ 小説・論文読解
- 9 ジェンダー／クィア批評⑤ ジェンダー／クィア批評からの発展
- 10 カルチュラル・スタディーズ① 歴史と理論（受容理論、媒体の研究）
- 11 カルチュラル・スタディーズ② 歴史と理論（アダプテーション）
- 12 カルチュラル・スタディーズ③ 小説・論文読解
- 13 カルチュラル・スタディーズ④ カルチュラル・スタディーズからの発展
- 14 授業のまとめと総括：理論的アプローチの意義
(内容は変更する場合があります。)

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | |
|------|--------------------------------------|
| 中間試験 | 0% |
| 期末試験 | 0% |
| レポート | 40% 学期末に、授業内容に関するテーマでレポートを提出してもらいます。 |

- 平常点 60% 授業時に小テスト・コメントの提出を求めます。平常点とは、これらの授業内課題の内容による評価のことを言います。
- その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

毎回、授業に出席することが基本ですから、欠席が半期に3回を超える場合は原則として成績評価の対象から除外します。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- 【テキスト】
購入してもらうテキスト等はありません。取り上げる作品・論文については、プリント、PDFなどを配布します。
- 【参考文献】
授業内で適宜紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

小説作品や論文などは事前に配布します。授業内での解説の前に、各自が通読していることが前提の授業となります。十分な予習が必要な授業ですので、承知しておいてください。

参考URL

備考

科目名： 国語学研究A**担当教員： 大西 拓一郎**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限： 木2

配当年次：3・4年次担当

科目ナンバー：LE-JA3-A409

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:56:57 更新者：AC1622

更新日時：2023-12-19 14:24:27

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

日本語方言の全体像を概括的にとらえるとともに、それを対象とした日本語方言学を概説する。方言・共通語の定義から始まり、具体的な各地の方言の特徴をとらえ、それらがどのように研究され、解明されてきたのかを学ぶ。

科目目的

方言と呼ばれる言語の性質ならびにそれを研究することの意義を理解する。

到達目標

日本語の中にどのような地理的異なりがあり、それがどのように解明されてきたかの流れを把握する。

授業計画と内容

- 第1回 方言とは何か
- 第2回 方言・共通語・標準語
- 第3回 日本語の方言① 東部方言
- 第4回 日本語の方言② 西部方言
- 第5回 日本語の方言③ 九州方言
- 第6回 日本語の方言④ 琉球方言
- 第7回 方言研究の歴史
- 第8回 方言の記述的研究
- 第9回 方言分布の解明
- 第10回 言語地理学
- 第11回 方言区画論
- 第12回 方言区画論と言語地理学
- 第13回 標準語化
- 第14回 方言はなぜあるのか／総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数／週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 70% 日本語方言学についての基礎知識を理解した上で、日本語の方言について学問としての方言学の観点から説明できるかどうかを評価します。
- レポート 0%
- 平常点 30% 授業への参加（課題提出）、受講態度（意見の表明等）の状況を基準とします。
- その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

大西拓一郎『現代方言の世界』（2008年，朝倉書店，シリーズ現代日本語の世界6）ISBN 9784254515565

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 国語学研究B

担当教員: 大西 拓一郎

履修年度: 2024 学期: 後期

開講曜日時限: 木2

配当年次: 3・4年次配当

科目ナンバー: LE-JA3-A410

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 06:56:57 更新者: AC1622

更新日時: 2023-12-19 14:32:34

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

方言の分布を研究する言語地理学を概説する。言語地図に現れる方言の分布とはどのようなもので、言語の変化とそれがどう関わるのか、またそれらと社会や自然環境との関係についてなど、具体的な方言の分布図をもとに学ぶ。

科目目的

方言分布ならびにそのもととなる言語変化の基本を把握する。

到達目標

方言分布と言語変化を研究する言語地理学の基礎と展開を理解する。

授業計画と内容

- 第1回 言語地図・方言分布の類型
- 第2回 言語の内的変化・外的変化
- 第3回 古典的言語地理学・言語としての方言と方言形成の基本
- 第4回 類音牽引
- 第5回 同音衝突1
- 第6回 同音衝突2
- 第7回 民間語源
- 第8回 有縁性・有縁化
- 第9回 言語の伝播
- 第10回 言語と制度
- 第11回 言語変化と社会環境
- 第12回 方言分布をささえる言語システム
- 第13回 文法の実時間変化
- 第14回 方言分布の基本則

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	70% 言語理学についての基礎知識を理解した上で、方言分布と言語変化について言語地理学の観点から説明できるかどうかを評価します。
レポート	0%
平常点	30% 授業への参加(課題提出)、受講態度(意見の表明等)の状況を基準とします。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

大西拓一郎『ことばの地理学—方言はなぜそこにあるのか』(2016年, 大修館書店) ISBN 9784469213607
『方言はなぜ存在するのか—ことばの変化と地理空間』大西拓一郎著 大修館書店 2023年 ISBN 9784469213959
大西拓一郎『現代方言の世界』(2008年, 朝倉書店, シリーズ現代日本語の世界6) ISBN 9784254515565

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 日本芸能史A**担当教員： 高橋 則子**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：水1

配当年次：3・4年次担当

科目ナンバー：LE-JC3-A411

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:56:57 更新者：AC5823

更新日時：2023-11-30 11:35:25

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

日本の芸能について、原始芸能から江戸時代初期の芸能までの流れを学びます。

日本には様々な古典芸能があり、現在でもいくつかは残されています。日本の芸能史については、高校までの教育の中で触れることは少なかったと思います。そのため、基本的な日本芸能史の流れを学びます。

各地の祭りや能・狂言、浄瑠璃・歌舞伎、落語のような古典芸能に触れることは、日本の特質や精神性を理解する上で大切です。特に中世以降の芸能については、文学作品や人々の精神生活に多くの影響を与えています。江戸時代の庶民文学を学ぶ上では、浄瑠璃・歌舞伎は欠かすことができません。

更にこれらの古典芸能を味わい、楽しむことができるようになりますと、日々の生活の彩が豊かになります。

パワーポイントにより、図版などを多用して、理解の一助にします。古典芸能の動画鑑賞を、毎回20分程度行う予定です。

科目目的

この授業は、幅広い教養として、日本の芸能史に関する基礎的な知識を習得することを目的としています。

到達目標

日本の芸能に関する基礎的な知識を身につけ、理解したうえで、古典芸能を鑑賞することができるようになることを目標とします。

授業計画と内容

- 1、芸能とは何か／原始芸能／授業の概要、参考文献紹介
- 2、大陸文化の伝来／平安前期
- 3、平安後期／中世芸能の確立
- 4、能楽の形成と発展①
- 5、能楽の形成と発展②
- 6、能楽作品の鑑賞①
- 7、能楽作品の鑑賞②
- 8、中世芸能の普及
- 9、近世芸能の特質／歌舞伎誕生
- 10、女歌舞伎・若衆歌舞伎
- 11、人形浄瑠璃の成立
- 12、形成期の歌舞伎
- 13、古浄瑠璃
- 14、総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

予習：各回の授業内容について、参考文献や参考WEBサイトで概要を調べておく。

古典芸能の鑑賞を行った場合は、具体的な内容や感想についてレポート提出する(任意)。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	60%	芸能史に関する基本的な知識を、講義内容に即して試験します。
レポート	20%	古典芸能に関する興味・理解が正確に記されているかを評価します。
平常点	20%	授業への参加度を基準とします。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト：授業内でプリントを配布します。
参考文献：授業内で指示します。

オフィスアワー

その他特記事項

受講者の反応等により、授業計画通りに進まない場合もあります。
授業内容に関する質問等には随時対応します。

参考URL

科目名： 日本芸能史B**担当教員： 高橋 則子**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：水1

配当年次：3・4年次担当

科目ナンバー：LE-JC3-A412

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:56:58 更新者：AC5823

更新日時：2023-11-30 11:35:59

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

日本の芸能について、江戸時代初期から近代までの芸能の流れを学びます。

日本には様々な古典芸能があり、現在でもいくつかは残されています。日本の芸能史については、高校までの教育の中で触れることは少なかったと思います。そのため、基本的な日本芸能史の流れを学びます。

各地の祭りや能・狂言、浄瑠璃・歌舞伎、落語のような古典芸能に触れることは、日本の特質や精神性を理解する上で大切です。特に中世以降の芸能については、文学作品や人々の精神生活に多くの影響を与えています。江戸時代の庶民文学を学ぶ上では、浄瑠璃・歌舞伎は欠かすことができません。

更にこれらの古典芸能を味わい、楽しむことができるようになりますと、日々の生活の彩が豊かになります。

パワーポイントにより、図版などを多用して、理解の一助にします。古典芸能の動画鑑賞を、毎回20分程度行う予定です。

科目目的

この授業は、幅広い教養として、日本の芸能史に関する基礎的な知識を習得することを目的としています。

到達目標

日本の芸能に関する基礎的な知識を身につけ、理解したうえで、古典芸能を鑑賞することができるようになることを目標とします。

授業計画と内容

- 1、古浄瑠璃の鑑賞①
- 2、古浄瑠璃の鑑賞②
- 3、元禄歌舞伎・元禄上方歌舞伎
- 4、近松門左衛門①
- 5、近松門左衛門②作品鑑賞
- 6、近松門左衛門③作品鑑賞
- 7、元禄江戸歌舞伎・元禄その他の芸能
- 8、2代目市川團十郎と江戸歌舞伎
- 9、浄瑠璃と歌舞伎の交流①
- 10、浄瑠璃と歌舞伎の交流②
- 11、浄瑠璃と歌舞伎の交流③
- 12、大坂歌舞伎・寛政期以降の江戸歌舞伎
- 13、鶴屋南北・河竹黙阿弥の歌舞伎
- 14、総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

予習：各回の授業内容について、参考文献や参考WEBサイトで概要を調べておく。

古典芸能の鑑賞を行った場合は、具体的な内容や感想についてレポート提出する(任意)。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	60%	芸能史に関する基本的な知識を、講義内容に即して試験します。
レポート	20%	古典芸能に関する興味・理解が正確に記されているかを評価します。
平常点	20%	授業への参加度を基準とします。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト：授業内でプリントを配布します。
参考文献：授業内で指示します。

オフィスアワー

その他特記事項

受講者の反応等により、授業計画通りに進まない場合もあります。
授業内容に関する質問等には随時対応します。

参考URL

備考